



施設化が進む農村(豊松村)

農業・農村の役割と試験研究

本来、農業・農村は多元的な価値として、①経済的役割：国際経済的，国民経済的，地域経済振興，②社会的・文化的役割：社会的交流・連携，福祉的機能，教育的機能，人間性回復機能，③生態環境的役割：国土保全，生活環境保全，地域資源・エネルギーの循環的利用を有しているが，主に食料や工業原料の供給産業・基地とみなされてきた。近年，国民生活の向上に伴い，価値観が多様化し，生態環境的役割，社会的・文化的役割も見直され，とりわけ農村の景観そのものが新たな産業になりつつある。

昨年3月に県農林水産部が策定した「広島県新農林水産業・農山漁村活性化行動計画」は日本で一番住みやすい生活県づくりに農業・農村の多元的な機能の維持が必要であるとしている。行動計画を具現

化するには農業のみならず総合的な調整が必要であることは論を待つまでもない。しかし，生産が放棄されて荒れ果てた農村に都会の人達が魅力を感じるだろうか？ 快適な生活空間の創出，公益的機能の維持・発揮ができるだろうか？ 否，「生産＝農業」あってこそ農業・農村は多元的な価値と魅力を発揮すると考える。

当面の研究対象としては，急増する安価な農産物輸入対策，消費者ニーズへの対応，業務用・量販店対策，低コスト・省力・軽作業化，環境負荷低減等の生産者の要望への対応になる。今後は社会的・文化的役割や生態環境的役割がますます増えてくると考える。更に，将来に予想されている食料危機をも視野に入れて考える必要がある。

園芸研究部長 伊藤悌右

モモ栽培の省力化と快適化を図る「一文字型整枝」

従来の整枝法では樹高が4~5mに達するため、脚立に登って作業を行う必要があり、危険でつらい仕事でした。そこで、果実や枝の管理が自然な立ち姿で行える整枝法を考案しました。

一文字型整枝における枝の管理方法は、①主枝は2本として地上1.4mの高さに水平に誘引します。②栽植間隔は株間6m、条間2.8mとして、着果位置を地上1.4~1.8mの範囲とします。③新梢の勢力は摘

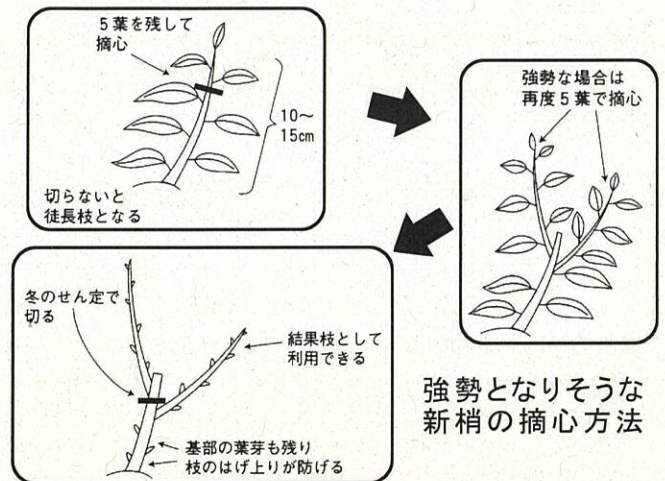


収穫作業の様子

心と誘引で調節します。強勢となりそうな新梢は、新梢長が10~15cmの時に基部側の5葉を残して切除します。再度伸張した新梢も同様に切除します。

作業効率は、従来の整枝法と比較して袋掛けでは14%、収穫では38%高くなります。なお、せん定・誘引作業では逆に作業効率が32%低下しますが、全ての農作業が楽に行えます。

(落葉果樹研究室)



強勢となりそうな新梢の摘心方法

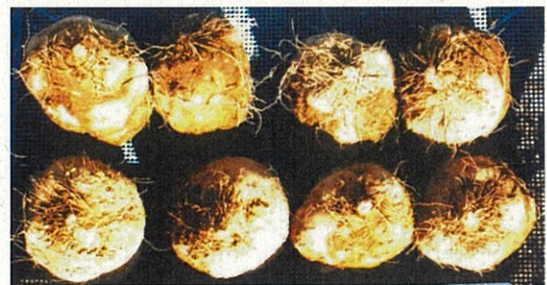
ヤマノイモ新品種による産地拡大

ヤマノイモ（ツクネイモ）は、ビタミン類が豊富で栄養価も高く高収益が期待できる作物です。

当センターでは平成8年に平均芋重450gの多収系統「広系1号」を育成しました。この系統はとろろの粘りが強く、加工歩留りが高いことから、栽培面積も拡大しつつあります。また、緩効性肥料を用いた基肥一発による省力低コスト施肥法の開発や芋肥大期（8月中旬から9月下旬）の降水量が収量に大きく影響するなど、気象要因の解析を行い、生産振興に直接役立つ技術を開発してきました。

吉舎町、大和町、西城町等の約20haで作付けされ特産作物として定着しています。平成12年度には、第3セクターの加工食品会社を設立している吉舎町で、全国に先駆けて山の芋サミットが開催され好評を博しました。

今後もヤマノイモのように粘り強く、産地を支援していきます。



広系1号(上)と原々種の栽培状況(下)

(生物工学研究所)

湛水処理によるクワイ赤枯症の防除

福山市のクワイは全国一の生産量を誇る広島県の重要な地域特産物です。近年、連作圃場において株の枯死や塊茎腐敗が発生し、その原因がフザリウム菌による赤枯症であることがわかりました。そこで、環境にやさしい防除技術として、定植前の湛水処理による赤枯症の発病抑制効果を明らかにしました。

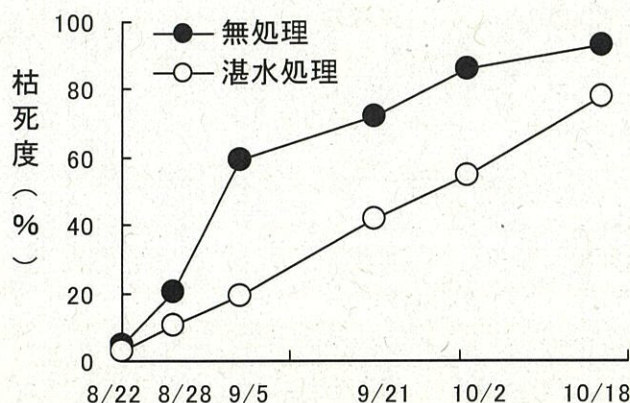
クワイ赤枯症は、フザリウム菌が根から侵入し

導管をつまらせるため、地上部に水分や養分が運ばれず、葉が黄色～深紅色に変色し枯死します。また、根・クラウン・塊茎などの地下部は褐変・腐敗します。フザリウム菌は、耐久体（厚膜孢子）で土中に長期間残ります。定植前の湛水処理は、フザリウム菌密度を下げ、赤枯症の発病を抑制します。

(環境研究部・専門技術員室)



赤枯症によって枯死した株



湛水処理による赤枯症発病の抑制効果

麦茶に適する六条大麦「すずかぜ」

麦茶の原料には、小粒で炒りやすく甘みがあって香りが良い六条大麦が適するとされています。県内の加工業者からは麦茶適性に優れた新しい品種が求められています。

当センターおよび高宮町、三次市などで品種選定試験を行った結果、現在作付されている「ミノリムギ」に比べて、「すずかぜ」が栽培しやすく、おいしい麦茶ができることがわかりました。

「ミノリムギ」と比した特性は次のとおりです。

- ①出穂期、成熟期とも5日早く、梅雨入り前の5月中旬に収穫可能である。
- ②稈長は約20cm短く、稈が太く強いため倒れにくい。
- ③収量は1割程度多い。
- ④外観品質（検査等級）はやや優れる。
- ⑤小粒で煎りやすい
- ⑥麦茶は香りが良く甘みがある。

⑦寒さや雪に弱いため北部・高冷地域での栽培は避ける。

平成13年度末に奨励品種採用の予定です。

(作物研究部)



すずかぜの生育状況

ひろしまの在来作物(24) — 青物の端境期に重宝、極晩抽性高菜「春木在来」 —

山県郡千代田町春木地区で数十年にわたって栽培されている在来の高菜である。葉の大きさは一般に栽培されている高菜類に比べるとやや小さく中肋部も狭い。葉形は箒状で葉縁には浅い欠刻があり、高菜というよりは不結球白菜に近い。アントシアンの発生は少ないが、高菜類に特徴的な辛子臭は並である。耐寒性は特に強いとは思えないが、三池高菜等に比べると中肋部の被害が少ないようである。

この品種の最大の特徴は極めて晩抽であるということである。一般の菜類は低温に敏感で早春に抽苔開花するものが多い。高菜類はその中では晩抽の部類だが、この品種は特に晩抽である。秋播き菜類のほとんどが畑から姿を消す時期にまだ青々と生育しているため、この時期の煮物、浅漬けなどの素材として重宝される。

播種は中間地で9月中下旬が適地である。株の大きさが一般の高菜類より小さいため少し密播でき、掻葉もしくは間引き収穫しながら長期間利用できる。

(ジーンバンク技術主幹： 船越 建明)

(財)広島県農業ジーンバンクが収集した貴重な県内遺伝資源(種子)をシリーズで紹介いたします

◆刊行物案内

- 平成12年度果樹研究所試験研究成績書

◆農業技術センター 10~12月見どころ案内

- 作物研究部：地被植物類の生育開花，大豆，ソバの成熟状況（10月），麦の初期生育（11~12月）
- 園芸研究部：大型ピーマンの抑制型栽培用品種試験（10月）
高設栽培イチゴが色づきます，冬季出荷用ハウレンソウの栽培状況（12月）
バラの多収穫栽培法，種子冷蔵適用トルコギキョウの品種選定（10月）
スプレーカーネーションの開花状況，スプレーギクの一番花開花状況（11月）
シュッコンカスミソウの開花状況（12月）
- 環境研究部：ハウレンソウの不耕起連続栽培，トマト灰色かび病の生物防除
- 生物工学研究所：根こぶ病耐性ヒロシマナの生育状況
- 果樹研究所：温州みかんの各年交互結実法
カキ「太秋」，「安芸津14号，16号」などの収穫期

※この他，視察，見学等は常時，全所で受け付けています。どうぞ見学においでください。

発行 広島県立農業技術センター (企画情報部) 〒739-0151 東広島市八本松町原6869 TEL 0824-29-0521 FAX 29-0551 ホームページ http://www.arc.pref.hiroshima.jp/	編集後記 作物は受精時，花粉管を伸ばし胚嚢に達し受精する。東大が受精の瞬間を初めて画像で捉えた。新たな育種手法の開発が期待される。技術開発は止まらない。
---	---

— 組織と所在地 —

農業技術センター 本	所 (総務部，専門技術員室，企画情報部，作物研究部，園芸研究部，環境研究部，生物工学研究所細胞工学研究室，同育種研究室)
” 果樹研究所	〒729-2402 豊田郡安芸津町三津2835 TEL 0846-45-1225 FAX45-1227 (管理課，常緑果樹研究室，落葉果樹研究室)
” ” 柑橘研究室	〒729-0321 三原市木原町463 TEL 0848-68-0131 FAX68-0181